

# 日本語の「によって」と朝鮮語の '-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' (1)

深見兼孝

## はじめに

本稿は、日本語の「によって」と朝鮮語の '-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' を対照することにより、その意味用法の異同を明らかにすることを目的とした一連の研究の最初のものである。今回は朝鮮語原文とその日本語訳<sup>1)</sup>を資料に '-ey uyhayse' と「によって」の対照を試みる。

## 1 問題点

個々の議論にはいる前に、全体の問題となるところを指摘しておく。

おおざっぱに言えば、日本語の「によって」は朝鮮語の '-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' のいずれかに、朝鮮語の '-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' のそれぞれは日本語の「によって」に翻訳が可能のように思える。しかしながら、お互いにどこまで翻訳が可能でどこまでが不可能なのか、これまで議論されたことはない<sup>2)</sup>。また、朝鮮語の '-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' の意味用法がお互いにどこまで重なり合っているかも明らかにされてはいない。

言うまでもなく、これらはもともと「格表示要素+動詞(の活用形)」であるが、全体として先行成分と述語との関係を表示しているものと考えられる。そこで本稿では、その先行する成分が表している事柄と文(あるいは述語)の表している事柄を対照の基盤として、考察していく<sup>3)</sup>。

先行成分は、モノ的事柄を表すものとコト的事柄を表すものに大別できる。前者の場合、先行成分は実質名詞であり、事実上その名詞だけを取り上げることができる。これには有生物を表すものと無生物を表すものがある。「攻撃」、「進行」、「変化」などの名詞は、動きを抽象化してモノ(無生物)として表したものである。後者の場合、直接の先行成分は形式名詞である。その規定語は述語として他の成分を統括するので、その規定語が統括する範囲を取り上げなければならない。先行成分の表すコト的事柄は、文のそれに準じる。

文の表す事柄(コト的事柄)は大きく「動き」と「状態」に分けられ、前者は有生物の意図的な「動き」(以下「動作」と呼ぶ)とそれ以外の「動き」(以下「出来事」と呼ぶ)に分けられる。

「出来事」を表す文には本来受動文(日本語)/被動文(朝鮮語)も含まれるべきであるが、「によって」は受動文に、'-ey uyhayse', '-lo inhayse', '-lo malmiama' は被動文に関わりが深いと思われるので、特に被動文を「出来事」を表す文から分離して考察する。受

動文動詞の形態、および文の構造と意味について一応の定義が与えられているが、被動文はそうではない。データでは被動文に関わる動詞形態のひとつとして「漢字語+toy-」が現れるが、本稿では暫定的に対応する「漢字語+ha-」（「hata形」と呼ぶ）が他動詞専用であるときのみ、「漢字語+toy-」を述語とする文を被動文と呼ぶことにする。ただし、対応する hata 形が自他通用であるものや自動詞としてのみ用いられるものを述語とする文も、動詞形態の共通性によって、被動文に関わるものとしてあわせて考察する。ここでは、朝鮮語原文に「によって受動文」が対応するかどうかを主な焦点となる。

もう一つ、「出来事」を表す文から分離させて考察したいのは、「動き」を表す述語動詞が-key toy-によってマークされているときである。このとき文は「事態の変化」を表すと言うことにする。ここでは日本語の同様の表現「～ようになる」が対応するかどうかを主な焦点になる。

## 2 '-ey uyhayse' と 「によって」

-ey uyhayse'を含む文は、被動文、事態の変化、出来事、状態、動作いずれをも表す。

### 2-1 被動文

次の1は被動作主'kwukhoyuywen(-tul) (国会議員)'も動作主'kwukmin(-tul) (国民)'も有生物もしくは組織・団体の例、2は被動作主'siwi(デモ)'が無生物、動作主'phoklyekpay-na kyengchal (暴力団や警察)'は有生物もしくは組織・団体の例の例である。動作主は'-ey uyhayse'でマークされているわけであるが、この動作主の動作によって文の表す事柄が成立しているのであって、動作主はその動作の源泉である。

1 kwukmin-tul-ey uyhayse senchwultoy-n kwukhoyuywen-tul-i uyceng hwaltong-ul swuhayngha-m-ey iss-e tanglitanglyak-ey uykeha-ye ippep hwaltong-ul swuhayngha-kena i-lul potoha-nun maychey-tul-i ceykinung-ul taha-ci mos-ha-l kyengwu mincwucwuuy saho-ka ponlay uytoha-nun kwukmin-ey uyha-n cengchi-nun kitayha-l swu eps-key to-nta.

国民によって選出された国会議員が議政活動をするに当たり、党利党略によって立法活動を行うとか、これを報道するメディアが本来の機能を果たせない場合、民主主義社会が元々意図する国民による政治は期待できなくなる。

2 kulayse 4.19 cenhwu-uy pwuceng senke-ey hanguy ha-nun siwi-nun cengkwenchuk-uy apcapi-i-n phoklyekpay-na kyengchal-ey uyhayse thanaptoy-ess-ta.

そうして、4.19前後の不正選挙に抗議するデモは政権側の手先である暴力団や警察によって弾圧された。

次の3、4では'-ey uyhayse'の直接の先行成分の表すものは無生物である。3の'son(手)'は身体部位であって'tungsankayk (登山客)'が自由に使うことができるだけでなく、提喻によって'tungsankayk(登山客)'自身を指している。すなわち、動作の源泉そのものと言っ

でもよく、動作主に準じるものと理解してよいだろう。一方、4の'aplyek(圧力)'は'mikwuk(アメリカ)'の活動によって生まれたものであり、'mikwuk(アメリカ)'の存在とその活動を前提としていると理解でき、その意味では動作の源泉ではない。しかも、'aplyek(圧力)'それ自体は本来的に人間が他者へ対して何らかの作用を発揮するための媒介として存在するものではないので、人の動作との関連がさほど強くない。「原因」とでも言うべきものである。

3 tto inal tungsankayk-tul-uy son-ey uyhay swuketoy-n ssuleyki yang-to 3payk khillokulaym-ey kuchyess(<kuchi-ess)-ta.

また、この日登山客の手によって回収されたごみの量も300キロにとどまった。

4 mikwuk-uy aplyek-ey uyhay wenhwa kachi-ka cisokcek-lo celsangtoy-ko iss-una swuchwul tanka-lul insangha-ki-ka elyewe(<elyep-e) swuci-ka mac-ci anh-nunta.

アメリカの圧力によってウオンが持続的に切り上げられているが、輸出単価を引き上げるのが難しく収支があっていない。

次の5では先行成分'wucwu menci tung(宇宙塵など)'が自然物を表す。作用の源泉ではあるが、この作用は人の動作とは関わりがない。6では先行成分'phwunghwa-wa chimsik(風化と浸食)'が自然の作用を表す。どちらも「原因」と言えるだろう。

5 cikwu-lul twullessa-ko iss-nun tayki-nun thayko cek-pwuthe hwasan-uy pwunchwul-i-na sanpwul-ey uyhay sayngki-n cay, hwangsa(黄砂), patasmwul-i cun-gpalha-n twi-ey taykicwung-ey nam-nun sokum ipca, kuliko wucwu menci tung-ey uyhay kyeysock telep-hyecye(<hi-e-ci-e) wass(<o-ass)-ta.

地球をとりまいている大気は、太古より火山の噴出や山火事によって生じた灰、黄砂、海水が蒸発した後に大気中に残った塩の粒子、そして宇宙塵などによって汚され続けてきた。

6 olayn seywel-uy phwunghwa-wa chimsik-ey uyhay kiam cwungpong-i ssi-ki-ko pyenhwa mwussangha-n pawikkol-ul ilwu-ess-ta.

長い年月の風化と浸食によって奇岩峻峰が洗われ変化無双の姿を作り上げた。

以上1から6の朝鮮語被動文には、日本語も「によって」受け身文で対応する。受け身文で対応しないのはデータでは次の7一例のみであった。この例では日本語は自動詞で対応させるのがよい。「普及する」が本来もっぱら自動詞として用いられるからである。しかし、いずれにせよ、-ey uyhaseを「によって」と訳して問題はない。

7 kukes-tul-un tokca-tul-uy yokwu-ey ttala(<ttalu-a) kongkuptoy-mye swuyo-wa kongkup-uy wenchik-ey uyhay kasokcek-ulo pokuptoy-nta.

それらは読者の要求に従って供給され、需要と供給の原則によって加速的に普及する。したがって、朝鮮語が被動文である場合は、日本語では原則的に「によって」受動文で

対応し、例外的に自動詞文で対応することがあっても、'-ey uyhayse'そのものは「によって」と対応すると言ってよいだろう。

なお、ここで、主語が有生物で'-ey uyhayse'の先行成分が無生物の例がきわめて少ない。データでは次の8一例のみであった。

8 hanphyen pwukhan-uy kica-tul-un cwulo conghaptayhak-uy emwunhakpwu-wa kimilsengtayhak sinmwunkakkwa chwulsin-tul-i manh-umye hakkyo-uy chwusen -ey uyhay immyengtoy-nta.

一方、北朝鮮の記者たちは主に総合大学の語文学部と金日成大学の新聞学科出身が多く、学校の推薦によって任命される。

8の先行成分'chwusen(推薦)'は人の動作を表していることから、朝鮮語の-ey uyhayse 被動文では先行成分の表すものが主語の表すものより動作性が低いことを嫌うのではないかと思われるが、ここでは事実の指摘にとどめたい。

次の朝鮮語文9から14の述語動詞はすべて漢字語に-toy-が結合して形成されたものであるが、対応する hata 形は自他通用である。したがって、形の上だけではこれらの述語動詞が被動形なのか、あるいは被動の意味を含まない単純な自動詞なのか判別がつかない。しかし、toyta 形は広い意味での原因の存在をその意味のうちに含むと考えられる。

まず、'-ey uyhayse'の先行成分が有生物または組織・団体を表す場合を見てみる。

9 i hwalsenghwa-nun taycwung-tul-uy phoknelp-un houng-ul et-ess-ta-ki-pota-nun ceyhantoy-n ciptan-ey uyhay tonginci-na mwukhuci tung-ul thonghay (<thongha-ye), kuliko cangphyen sesasi•matangkwussi tung-uy hyengthay-lo cenkaytoy-ess-ta.

この活性化は大衆の幅広い呼応を得たというよりは限られた集団によって同人誌やムック誌などを通して、そして長編叙事詩・マダンクッ詩などの形態で展開した。

10 silsi kwacengcwung [cipangcachi-nun] pinunglyul-kwa siki sangco-la-nun iyu-lo kwunsa cengpwu-ey uyhayse ilsi-ey cwungtantoy-ko mal-ass-ta.

実施途中で[地方自治は]非能率と時期尚早だという理由で軍事政権によってたちまち中断されてしまった。

上の例では、対応する日本語の述語動詞の「スル形」、すなわち「展開する」も「中断する」もまた自他両用であるが、自動詞文でもよい場合(9)と、受動文の方がよい場合(10)とがある。これは、日本語における漢字語基の意味の違いを反映しているものと考えられるが、適当な動詞の形を選択すれば、'-ey uyhayse'を「によって」と訳出できる。なお、次の11では日本語文は他動詞文で対応しているが、これは'mwuhyohwatoy-(<無効化 toy-)'が直訳できないためであり、やはり、述語を適当に移し替えれば'-ey uyhayse'を「によって」と訳出できる。

11 amwuli hyokwa-ka coh-un hangkyuncey-ka nawato(<nao-ato) seykyun-un

enceyna i-ey tayhay (<tayha-ye) tayhang-ul ha-l pangpep-ul chac-ko iss-ko sil-ceylo manh-un yak-tul-i naysengkyun-ey uyhay mwuhyohwatoy-ko iss-nun kes-i-ta.

どんなに効果のある抗菌剤が現れても細菌はいつもこれに対して抵抗をする方法を探しており、実際に多くの薬が耐性菌によって効力を失っているのだ。

次の12から15は'-ey uyhayse'の先行成分が無生物を表す例である。

12 taman tahayngsulewun (<tahayngsulep-un) il-un alphonsin taythonglyong-i imki 8nyen-ul oncenhi chaywu-m-ulosse i nala henceng sasang cheum-ulo kwunpwu khwuteytha-ey uyhay pwungkoytoy-ci anh-un yuilha-n minsen cengpwu-lul ikkul-ess- ta-nun sasil-i-ta.

ただ幸いだったのは、アルフォンシン大統領が任期8年を全うしたことで、この国の憲政史上初めて軍部のクーデターによって崩壊しなかった唯一の民選政府を導いたという事実だ。

13 chengsonyen-uy yakmwul namyong-un pokcapha-n kacok mwuncey-wa seng-cang kwacengsang-uy kyelham-eyse-pwuthe namyongca-uy sengkyek paltalsang-uy mwuncey, kuliko chinkwu ciptan, hakkyo mwuncey tung hwankyengcek yoin-ey ilu-ki-kkaci maywu tayangha-ko pokcapcek-i-n wenin-ey uyhay pilostoy-nta.

青少年の薬物濫用は、複雑な家庭問題と成長過程上の欠陥から、濫用者の性格発達上の問題、そして友人関係、学校の問題など環境の問題にいたるまで実に多様で複雑な原因によって始まる。

これら12、13では主語が有生物である(12)かそうでない(13)かにかかわらず、日本語は自動詞文の方が自然である。いっぽう、次の14では日本語は受動文となる。述語動詞の「形成される」に対応する「形成する」が他動詞だからである。

14 ttohan umakcek kamswuseng-i-la-nun kes-i tapwunhi panpokcek kyenhem-ey uyhay hyengsengtoy-nun kes-i-la-nun sasil-ul sayngkakha-myen 'cayensulep-ta'-nun cwucang -un cenhye seltuklyek-i eps-ta.

また、音楽的感受性というのが多分に反復的経験によって慣習的に形成されるという事実を考えれば、「自然である」という主張は全く説得力がない。

以上のように、朝鮮語で述語動詞に用いられている動詞が、自他両用の hata 形と対応しているときは、日本語では用いる動詞の性質によって、自動詞文か受け身文を選択しなければならないが、'-ey uyhayse'を「によって」と訳出する事は可能である。

次の15の述語動詞'wumcikeyeci-'は自他両用の'wumciki-(動く/動かす)'から派生されたものである。その意味で、ここで扱っている動詞の類型にはいるだろう。日本語では自動詞文に対応させるのが適当である。

15 talase motun kyengcey hwaltong-un cengkwen kikwan-i caksengha-n kyeyhoyk

-ey uyhayse-mam wumcikye (<wumciki-e)-ci-l swu iss-umye, kyengcey kwanli yeksi koto-lo cwungang cipkwenhwatoy-n kyeyhoykcek kwanli-lo ilwu-e-ci-ko iss-ta.

したがって、すべての経済活動は政権機関が作成した計画によってのみ動きうるのであって、経済管理もまた高度に中央集権化した計画的管理となっている。

次の16では主語も先行成分も有生物を表すが、述語動詞'pwungkoytoy-'に対応する'pwung-koyha-(崩壊する)'も自動詞であることに注意されたい。日本語でも「崩壊する」は自動詞であるが、受動文で訳すのがよいだろう。

16 canghuy-pin sosayng-uy atul-ul seyca-lo sam-ulye-nun swukcong-ey pantayha-n sein (西人) -i namin (南人) -ey uyhay pwungkoytoy-n ilunpa kisasahwa (己巳土禍) -lo huysayngtoy-n cangponin-i palo kimmancwun-i-ta.

張禧嬪の生んだ息子を跡継ぎにしようとする肅宗に反対した西人が南人によって崩壊させられたいわゆる己巳土禍で犠牲になった張本人がキム・マンジュンその人だ。

一方、次の17は先行成分のみが有生物を表す。受け身文を使って日本語することはおそらく可能であるが、いかにもこなれていない感じがする。むしろ、17のように自動詞文にするのが適当であろう。ただしその場合、'-ey uyhayse'が結合する名詞はなんらかの形で無生物を表すものとして訳出しておく必要がある。ここでは先の16と同じ動詞が述語として用いられているが、日本語に訳すに当たって、同じ動詞でも主語の有生・無生によって述語の形を考慮しなければいけない例である。

17 kuntay yulepsa-ey nathana-n poswu-wa cinpo-uy kicwun-ulo po-myen pwunmyenghi poswucek-i-la-nun cem-eyse-nun cenhye selo talu-l pa-ka eps-nun mincwutang-kwa konhwatang-uy yangtang cepto-nun kukes-i hwakliptoy-n ci l payk50nyen-i cina-tolok hanpen-to hyeksin seylyek-ey uyhay pwungkoytoy-n cek-i eps-ta.

近代ヨーロッパ史に現れた保守と進歩の基準からみれば、明らかに保守的だという点では全くお互いに差のない民主党と共和党の2大政党制は、それが確立されて150年が過ぎる今日まで一度も革新勢力によって崩壊させられたことはない。

17' 近代ヨーロッパ史に現れた保守と進歩の基準からみれば、明らかに保守的だという点では全くお互いに差のない民主党と共和党の2大政党制は、それが確立されて150年が過ぎる今日まで一度も革新勢力の手によって崩壊したことはない。

次の例18でも述語動詞'palsayngtoy-'に対応する'palsayngha-(発生する)'は自動詞であり、日本語「発生する」も自動詞である。しかしこの例は自動詞文にしか訳せないだろう。

18 inkan-uy cilpyeng kawuntay sangtangswu-ka seykyun-ey uyhay palsayngtoy-myē ku seykyun-i palkyentoy-n kes-un kuleh-key olaytoy-n il-i ani-ta.

人間の疾病中相当数が細菌によって発生するが、その細菌が発見されたのはさほど古

いことではない。

朝鮮語の述語動詞に対応する hata 形が自動詞であるときも、日本語では用いる動詞の性質によって、自動詞文か受け身文を選択しなければならないが、'-ey uyhayse'を「によって」と訳出する事は可能であるという点で、基本的には対応する hata 形が自他通用であるときと変わりがない。しかし、17'のように、'-ey uyhayse'の先行成分を日本語で無生物に訳す必要のある例があることは、注目に値する。これについては、以下でも議論する。

## 2-2 事態の変化

ここでは、'-ey uyhase'が結合する名詞が表す事柄が、事態変化の原因であると考えられる。まず、'-ey uyhase'が結合する名詞が有生物を表す場合を見てみる。

次の19の'-key toy-'が結合した'ketwu-(収める)'は本来動作を表す他動詞であるが、無生物主語'maya, inkha mwunmyeng(マヤ、インカ文明)'と目的語'choyhwi-uy wunmyeng(最後の運命)'を統合することによって、擬人法ではあるが非意図的な事柄を表している。日本語では事態の変化を表す「~ようになる」のない単純な他動詞文に対応するだろう。

19 anteyisu sanmayk-ul cwungsim-ulo swuchen nyenkan hwalyeha-key kkochphiwess (<kkochphiwu-ess)-ten maya, ingkha mwunmyeng-i 15seyki kyeng yulep-uy salin chinipca-tul-ey uyhay eiepsi choyhwu-uy wunmyeng-ul ketwu-key toy-n ihwu onulnal-kkaci ameylikha-ey-nun swunswu ameylintien-uy toklip kwukka-ka seywe(<sewu-e)-ci-n il-i eps-ta.

アンデス山脈を中心として数千年間華麗に花開いたマヤ、インカ文明が、15世紀頃ヨーロッパの殺人侵入者によってもろくも最後の運命を遂げてから今日まで、アメリカには純粹のアメリカインディアンの独立国家が建てられたことがない。

次の20、21は本来の自動詞が'-key toy-'という形を取っている。主語は無生物である。しかし、20がそのまま「~ようになる」を使って日本語自動詞文に対応させることができるのに対し、21は朝鮮語の原文にはない語を使って'-ey uyhayse'が結合する名詞を無生物に訳出しておかないと、「~ようになる」と自動詞「起こる」を使った自動詞文に翻訳できないだろう。

20 kulentay 1960nyentay-ey tul-ese-myense phokhokhu, peyillin, wutu-wa kath-un hakca-tul-ey uyhayse kotay huylap-uy konghwacwuuy sasang-i tokliphyekmyeng-si-pwuthe mikwuk-uy cengchi-lul cipayhay(<cipayha-ye) o-n inyem-i-la-nun saylowun (<salop-un) haksel-i tungcangha-key toy-m-ilosse,.....

ところが、1960年代に入ってからポコフ、ベイリン、ウドのような学者たちによって、古代ギリシャの共和主義思想が独立革命時からアメリカの政治を支配してきた理念であるという、新しい学説が登場するようになったことで、

21 kulena ceyphesun, meytisun, monlo tung-ulo i(kis)-e-ci-n nampwu chwulsin taythonglyeng-tul-uy chicek-i kyeysoktoy-nun kawuntay cemcem sangephwatoy-e ka-nun mikwuk sahoey-eyse 'kaci-n ca'-tul-uy iik-i cwulo taypyentoy-nun yangsang-i simhwatoy-ca 1820nyentay hwupan-ey mikwuk cengchi-lul kayhyekha-ca-nun saylowun (<saylop-un) cinpo-uy mwulkyel-i caykson-ey uyhay ilena-key toy-nta.

しかし、ジェファソン、メディソン、モンローなどと続く南部出身大統領の治世が続く中、次第に産業化していくアメリカ社会で「持てる者」の利益がもっぱら代弁される様相が深まるや、1820年代後半にアメリカの政治を改革しようという新しい進歩の波がジャクソンの登場によって起きるようになる。

続いて'-ey uyhayse'が結合する名詞が無生物の場合を見てみる。次の22は主語'atong(＜児童) 'が有生物、23は主語'cayu(自由)'が無生物を表す。いずれも自動詞に'-key toy-'が結合しているが、「～ようになる」を使った日本語に対応させることができるだろう。日本語ではいずれも他動詞文で対応するが、23の「個人の…受ける」は動作を表したものではない。

22 1976nyen 4wel 29il palphyotoy-n elini pothongkyoyangpep-ey uyhay motun atong-un saynghwu 6kaywel-pwuthe 48kaywel cuk, yuchiwen-ey tuleka-ki-cen-kkaci mwulyo-lo thakaso-eyse kyoyukpat-key toy-nta.

1976年4月29日発表された幼児普通教養法によってすべての幼児は生後6カ月から48カ月、すなわち幼稚園に入るまで無料で託児所において教育を受けるようになる。

23 i-chelem kwukka kwenlyek-ey uyhay cayu-ka ceyyakpat-key toy-ca cayu-la-nun mal- un 'kangcey-ka eps-nun sangthay'-la-nun kocencek-i-n uymi ppwun-man ani-la 'cayu- uy cek (敵) '-i-n kwukka-ey tayha-n cehangkwen kkaci-lul phohamha-nun kes-ulo saylop-key cenguytoy-ess-ta.

このように、国家権力によって個人の自由が制約を受けると、自由という言葉は「強制のない状態」という古典的な意味だけでなく、「自由の敵」である国家に対する抵抗権までも含むものと新たに定義された。

以上のように、日本語では「によって」が結合する名詞が有生物を表すときは、非意図的な事柄を、「～ようになる」を使って事態の変化として言うことができない場合がある(19、21)。すなわち、非意図的な事柄についての「～ようになる」文では、「によって」が結合する名詞は無生物を表すものが好まれるのである。これは言葉を換えて言えば、日本語の非意図的な事柄についての「～ようになる」文では事態変化の原因を人それ自体ではなく、何か人でないモノとして表現する傾向があるのである。本稿では事態の変化を表す文には分類しなかったが、上の2-1の例17'で見られた現象もこれに類するものと言えるだろう。



## 2-4 出来事

'-ey uyhayse'が結合する名詞が表す事柄は、文の表す事柄の成立の原因である。

次の24と25は自動詞がそのまま用いられた例である。朝鮮語原文ではいずれも主語が無生物を、'-ey uyhayse'が結合する名詞が有生物を表すが、やはり単純に自動詞文で訳出できる場合(24)と、'-ey uyhayse'が結合する名詞を無生物に訳出しておく必要がある場合(25)がある。

24 cuk hwahak yopepcey-lan inkan-uy mom-ey chinipha-n pyengwenseng-i-n kisayngchey (seykyun, komphangi, wenchwung, pailesu tung)-ey cikcep cakyongha-ye ku palyuk-ul ceciha-kena cwuki-m-ulosse kukes-ey uyhay sayngki-n pyeng-ul chilyoha-nun yakmwul-ul malha-nta.

すなわち、化学療法剤とは、人間の体に侵入した病原性の寄生体（細菌、かび、原虫、ビールスなど）に直接作用してその発育を抑えたり殺したりすることで、それによって生じる病気を治療する薬物をいう。

25 soSEL "akma-uy si"-nun into phompeyipal lentenhayng cempo yekaykki-ka tope hayhyep sangkong-eyse sikhukyoto-ey uyhay kongcwung phokpalha-myense -pwuthe sicaktoy-nta.

小説『悪魔の詩』は、インド・ボンベイ発ロンドン行きのジャンボ旅客機がドーバー海峡上空でシーク教徒の破壊活動によって空中爆発したところから始まる。

次の26も主語が無生物を表す自動詞文であるが、'-ey uyhayse'が結合する名詞は24、25と違って無生物を表す。これは、そのまま日本語に対応させることができる。

26 1953nyen-uy cengcen (停戦) hyepceng-ey uyhay [cencayng-un] kkuthna-n kes kath-ciman, cengsen-i-lan ilsil ssawum-ul memchwu-ko iss-nun sangthay-lul malha-l ppwun kwungkukcek-i-n phyenghwa-lul uymiha-ci-nun anh-ki ttaymwun -i-ta.

1953年の停戦協定によって [戦争は] 終わったようにも見えるが、停戦というのは一時戦いをやめている状態を言うだけであって究極的な平和を意味するのではないからだ。すなわち、日本語では非意図的な事柄の成立の原因を無生物として表現する傾向があり、これは上の2-3で指摘した傾向と軌を同じくしている。

さて、ここでその事態成立の原因となる無生物だが、データ中の朝鮮語原文をそのまま日本語に対応させることのできる例から見ると、具体的な輪郭を持たないモノ、すなわち抽象物であった。すなわち、朝鮮語では原因は人でも（生命のない）具体物でも抽象物でもいいのに対して、日本語では人よりも（生命のない）具体物、（生命のない）具体物よりは抽象物を原因としてより適切とみなす傾向があると言えよう。

この傾向はさらに原因をモノではなくコト的なものとして表現する傾向につながる。日

本語では次の27において'-ey uyhayse'が結合する'tokkukmwul (毒物)'をそのまま訳出するより、27'のように-ey uyhayseの部分を含めコト的に訳出する方が自然であろう。

27 kuliha-ye "cungpomwuwenlok"-ey ceysiha-n hempep (驗法) -ey-nun mokcolla (<mokcolu-a) cwukyess(<cwuki-ess)-nunci, susulo mokmay(<mokmay-e) cwuk-ess-nunci, mwul-ey ppacye(<ppaci-e) cwuk-ess-nunci, cwukyese(<cwuki-ese) mwul-ey tencyess(tenci-ess)-nunci, mokswum-i pwuth-e iss-ul cek-ey sangche-lul nayss(<nay-ess)-nunci, cwuki-ko na-se sanche-lul nayss(<nay-ess)-nunci, ttonun celpyek-ey ttelecyey(<tteleci-e) cwuk-ess-nunci, tokkukmwul-ey uyhay cwuk-ess-nunci-ey tayhay(<tayha-ye) ku cosaha-nun pangpep-i caseyhi ceysitoy-e iss-ta.

こうして『増補無冤録』に示された驗法には、首を絞めて殺したか、自ら首をくくって死んだか、水におぼれて死んだか、殺して水に捨てたか、息のあるうちに傷を負わせたか、殺してから傷を負わせたか、はたまた絶壁から落ちて死んだか、毒物によって死んだかについて、調査する方法が詳しく示されている。

27' こうして『増補無冤録』に示された驗法には、首を絞めて殺したか、自ら首をくくって死んだか、水におぼれて死んだか、殺して水に捨てたか、息のあるうちに傷を負わせたか、殺してから傷を負わせたか、はたまた絶壁から落ちて死んだか、毒物が原因で死んだかについて、調査する方法が詳しく示されている。

以上、24から27までは自動詞文を扱ってきたが、データからは他動詞文でこのような現象が見られるかどうか確認できなかった。データでは他動詞文でありながら出来事を表す文は次の28、29だけである。どちらも'-ey uyhayse'が結合する名詞は無生物を表し、そのまま日本語に対応させることができる。

28 i-ey tayhay(<tayha-ye) sewul pwukpwu cipang kemchalcheng-uy han kemsanun "ileha-n kwankocwu-lul chepelha-ki wihayse(<wiha-yese)-nun hyengpep-sang sakicoy-uy hangmok-ulo kiso-lul hayya(<ha-yeya) ha-ciman sakicoy-nun phihayca-ka sangtaypang-ey sok-a caysan chepwun hayngwi-ey uyhayey caysan-sang-uy phihay-lul ip-ess-ul ttay sengliptoy-nun kes-i-mulo kiso-lul ha-nta hayto (<ha-yeto) chepelha-ki-ka elyep-ta" -ko malha-nta.

これに対し、ソウル北部地方検察庁のある検事は、「このような広告主を処罰するには刑法上詐欺罪で起訴しなければならないのだが、詐欺罪は被害者が相手にだまされ、財産処分行為によって財産上の被害を被ったときに成立するので、起訴をするにしても処罰は難しい。」と言う。

29 i taypalkyen-ulo phulleyming-un nopeyl uyhaksang-ul pat-nun yengkwang-ul an-key toy-ess-ko koskos-eyse kangyen chocheng-ul pat-key toy-ess-umye ka-nun kos-mata pheynisillin-ey uyhay saynmyeng-ul kenci-n salam-tul-uy kamsa insa

-lul pat-key toy -ess-ta.

この大発見でフレミングはノーベル医学賞を受けるという榮譽に浴し、いたる所で講演の招きを受け、出かける度にペニシリンによって命を長らえた人々の感謝の挨拶を受けることになった。

## 2-5 動作

データはすべて述語動詞が他動詞であった。

まず、'-ey uyhayse'が結合する名詞が有生物(人)を表す場合であるが、これはデータからは次の30のみであった。この場合、'-ey uyhayse'を単に「によって」と訳出するだけでは日本語として不自然である。30では主語は無生物ではあるが、擬人法によって動作主とされている。日本語では動作が'-ey uyhayse'に先行する名詞の表す人物に依存して成立することを明示する必要がある。これは、文自体が動作を表すため'uyhayse'もまた動作を表すと解釈されるのに対し、「よって」はそのように解釈されないことによる。すなわち、「よって」は'uyhayse'に比べて意味がより抽象的だと言うことができよう。また、日本語が行為の依存の対象となっている人を直接表現するのを好まないこととも通じる。

30 kulena i-nun oloci sinmwun-i kongcwung (公衆) -ey uyhayse saken-kwa mwuncey -uy cinsang-ul phaakha-ko i-lul phantan-uy kicho-lo sam-nunta-nun sinloy-lo -pwuthe o-nta.

しかし、これはひとえに新聞が公衆に依拠して事件と問題の真相を把握し、これを判断の基礎としているという信頼からくる。

これに対して、'-ey uyhayse'が結合する名詞が無生物を表すときは、日本語でも「によって」を対応させることができる。

31 tangpi-lan tanghen-i-na tangkyu tung-ey uyhayse cengtang-uy tangwen-i pwutamha-nun kumcen-i-na yukacungkwen, kitha mwulken-ul malha-nta.

党費というのは党綱領や党規などによって政党の党員が負担する金銭や有価証券、その他の物を言う。

このとき、'-ey uyhayse'が結合する名詞は、単に主語の表す人が動作を行うときに依存するものというよりは、一歩進んでむしろ積極的に利用するもの、すなわち「手段」を表すと解釈したほうがいい場合もある。一例を挙げれば次のようである。

32 iss-nun kes-un cikukhi swuphyengcek-i-n ne-wa na sai-ey kuttay kuttay haplicek phantan-kwa kyeysan-ey uyhayse selo-eykey towum-i toy-l swu iss-nunka eps-nunka-lul cewulcil ha-nun kes-ppwun-i-ta.

あるのは、きわめて水平的なおまえとおれの間でその時々に合理的判断と計算によってお互いに利益になりうるかそうでないかを秤に掛けることだけだ。

### 3 おわりに

以上の議論を整理すれば次のようである：

- 1) -ey uyhayse 文は、被動文、被動関連文を形成するほか、事態の変化、出来事、動作を表す。
- 2) -ey uyhayse が結合する名詞は次のような統語・意味機能を持つ：
  - a 被動文ではそれが有生物を表せば動作主で、無生物を表せば原因である。
  - b 被動関連文および事態の変化、出来事を表す文では原因である。
  - c 動作を表す文では依存の対象もしくは手段を表す。
- 3) -ey uyhayse 文は原則的に「によって」文に対応させることができる。ただし：
  - a 被動文、被動関連文を受動文に対応させることができるかどうかは、翻訳するときを選ぶ述語動詞の性格による。
  - b 被動関連文、事態の変化および動作を表す文では、-ey uyhayse が結合する名詞が人を表すとき、日本語にそのまま移し換えがしにくい場合がある。これは、日本語が原因や依存の対象を人として表現するのが好まないという性格を反映している。

### 注

- 1 朝鮮語原典は雑誌『한국인』1989年1月号から5月号である。原文の日本語訳は筆者による。朝鮮語原文はイェール方式によってローマ字化している。なお、例文中の[ ]は筆者が補ったものである。
- 2 '-ey uyhayse'、'によって'の対照に関わるものとしては、管見では、塚本(1990)に先行する名詞の表すものも'agentivity'が高ければ、'-ey uyhayse'、'によって'の代わりに'-ey (key)'、'に'が用いられる、という指摘があるのみである。一方、'によって'の分析は野村(1990)、森田・松本(1992)がある。
- 3 動詞は終止形のほかに冠詞形や接続形などにおかれていても、それが統合する範囲内では述語である。本稿で言う「主語」、「目的語」などは動詞が統合する範囲内でのものである。

### 言及した文献

- 塚本秀樹(1990) 「日本語と朝鮮語における複合助詞について」 崎山理・佐藤昭裕(代表編) 『アジアの諸言語と一般言語学』pp.646-657 三省堂
- 野村剛史(1990) 「～にとって／～において／～によって」 『日本語学』9-10 pp.60-66
- 森田良行・松本正恵(1992) 『日本語表現文型』pp.14-18, 38-41 アルク